

巡検・セミナー開催のご案内

令和3年度の巡検・セミナーについては、新型コロナウイルス感染状況やワクチン接種の状況などを判断しな

がら安全に留意し実施する予定です。当面は屋内施設を避け、屋外での巡検、屋外（もしくは換気が十分な室内）での昼食や休憩を検討します。

展覧会情報

佐竹氏の秋田開発(後期)

期間 ~11月20日
会場 千秋文庫(東京都千代田区)
電話 03-3261-0075

関宿関所は川関所!?

期間 ~11月28日
会場 千葉県立関宿城博物館(野田市)
電話 04-7196-1400

近代海図の誕生と伊能図~海図150周年特別展示~

期間 ~12月26日
会場 ゼンリンミュージアム(北九州市小倉北区)
電話 093-592-9082

G空間EXPO

期間 12月7・8日(オンラインでも開催予定)
会場 都立産業貿易センター浜松町館(東京都港区)
<https://www.g-expo.jp/index.html>

新型コロナウイルスの影響で、企画展の中止、入館制限(要予約など)が行われています。観覧の前に、各博物館等のWebサイトなどでご確認下さい。

mini地図NEWS

▶ アフガニスタンの国旗

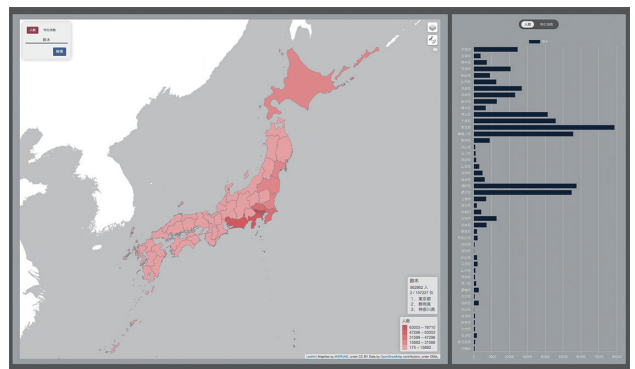
2021年10月にアフガニスタンの実権を掌握したターリバーン(タリバン)ですが、国旗と国名を変更しています。国名は「アフガニスタン・イスラム共和国」から「アフガニスタン・イスラム首長国」になりました。国旗は1997~2001年に同国を支配したターリバーンが使用したのと同じ、文字の意味は「シャハーダ(信仰告白:アッラーの他に神はなし。ムハンマドはアッラーの使徒である)」と書かれています。シャハーダはサウジアラビアの国旗にも描かれます。10月現在、同国を承認している国はほとんどありません。



アフガニスタンの旧国旗(左)と新国旗(右)

▶ 名字の分布が分かる「名字マップ」

立命館大学が作成した「名字マップ」。電話帳や住宅地図の約4千万件のデータを地図化したもの。日本では世界で最も名字(姓)が多い国といわれていますが、都道府県ごとの人数が地図上に階級表示されます。また、「特化係数」という、当該の名字が各都道府県でどの程度特化しているかを示したデータも表示されます。URLは <https://www.dmuchgis.com/myojimap/> (出典:GIGAZINE)



「鈴木」で検索してみました。左上の検索欄上部に、人数と特化係数の切り替えボタンがある。

地図絡み

自然災害伝承碑

(一財)地図情報センター 監事 伊藤 等

はじめに

何かにつけお世話になるのは国土地理院「地理院地図」です。そこに「自然災害伝承碑」(図1)を見つけました

(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>)。

本物を見たことがありました

筆者は東日本大震災被災地調査(東京・千葉、東北方面)の際、自然災害伝承碑を確認し興味を湧きました(写真1)。

ホームページには更新情報・自然災害伝承碑の取組・

自然災害伝承碑

先人が伝える災害の教訓

自然災害伝承碑

過去に発生した自然災害の教訓を後世に伝えようと先人たちが残した石碑やモニュメントです



図1 国土地理院ホームページの“自然災害伝承碑”

写真1 昭和8年3月3日 大震嘯災記念「大地震どんと沖なりそら津波」正六位勲六等四竈仁邇書、2013年5月21日筆者撮影(気仙沼)

自然災害伝承碑情報の内容などがあり、「地理院地図で見る」から日本全国の自然災害伝承碑の分布を見ることができます(図2)。更に記号をクリックすると伝承碑の内容が表示されました(図3)。チリ津波の被害が沖縄までも達していた事を知りました。

さて他に情報はと探してみたくになります

(公社)日本測量協会『測量』の表紙に自然災害伝承碑の写真(図4)、本文見開き2頁に解説(図5)が掲載されていました。編集担当者の方によると掲載は2020年から計画され2021年1月号から12月号までの掲載で国土地理院の方が執筆されているとの事でした。また、web検索をしてみると実に多彩・有益な情報があり豊富な知識を得ることができる事もわかりました。



図2 表示項目と地理院地図・自然災害伝承碑記号が現れ、記号をクリックすると図3の表示となります。

| 津波被災地跡 | |
|--------|--|
| 概要 | |
| 碑名 | 津波被災地跡 |
| 災害名 | 津波 (1960年5月24日) |
| 災害種別 | 津波 |
| 建立年 | 1995 |
| 所在地 | 沖縄県名護市字真真屋 |
| 伝承内容 | 昭和35年(1960)5月23日南米子り近海でM8.5の地震が起き大津波が発生。津波は太平洋を横断。当地には、真真屋小学校があったが津波によって全校舎が破壊された。地域での死者は3人。 |

図3 碑の写真と概要が表示され内容を理解出来ます。

地図化は?

国土地図株式会社のホームページ (<https://kokudochizu.co.jp/>) に日本地図と海底地形などの表現のある図に記号欄と自然災害名・発生年の吹き出しを書き込んだ“自然災害伝承碑案内図”がありました。増える情報はホームページ上の地図では更新されているようです(地図上



図4 『測量』2021年9月号の表紙



図5 本文の概観

に書き切れなくなったら? 次の地図表現が楽しみです。本号の付録になるとの事ですので実物をご覧ください。

まだまだ言い伝えはあるでしょう

日本各地で多種の自然現象による災害が発生しています(災害化した原因が人為的である場合もある様です)。後世に伝え、災害を忘れない、記録化などによりこんなにも各地に自然災害伝承碑が存在するとは知りませんでした。しかし、古老の話、地域の言い伝え、昔そんな事があったなど伝承碑とはなっていない災害もあるでしょう(注1)。

記録する、伝える、忘れない、減災になどこれからも過去の多くの教訓を後世に伝えるために地域に残る伝承を掘り起こす必要があるでしょう(地域学習、地域の取り組みなど)。

しかし、新たな災害による祈念碑の増加だけでは何としても防ぎたいものです。

注1: 朝日新聞2021年9月19日朝刊“天声人語”には、長崎市の山川河内(さんぜんごうち)地区に伝わる江戸時代に発生した災害を長く伝えるための行事の話し。

(2021.10)